

No.	カテゴリー	発言の内容	対応
1	「文化力の拠点」の整備イメージに関する意見	街区南側の道路を緑豊かな空間と捉え、「文化力の拠点」の3階のメインエントランスと南側のグランドレベルとの繋ぎ方に工夫が必要である。	○基本計画の策定において、東静岡駅の自由通路から「文化力の拠点」のメインエントランス、さらには南側のグランドレベルや古代東海道の遺構、グランシップなどの連続性を確保するとともに、道路沿いに暗い壁が並ぶことのないよう、施設や機能の配置に留意する。
2		道路に建物の暗い壁がずっと並ぶことがないよう、設計では留意が必要である。	
3		駐車場を1階、2階に配置すると、駐車場に面する部分には壁が並んでしまうことから、何らかの工夫が必要である。	
4		グランシップの芝生広場と「文化力の拠点」との連続性についても、今回の議論で深まると良い。	
5	「文化力の拠点」への導入機能に関する意見	「文化力の拠点」への来訪者をどのくらい見込み、駐車場を何台分確保するのか、事務局で整理し、提示していただきたい。	○「文化力の拠点」への導入機能を踏まえ、今後、調査を行い、来訪者および駐車場台数を推計し、報告する。
6		コンベンション（グランシップ）の駐車場機能も考慮する必要がある。	○検討に当たっては、既存のグランシップの駐車場の必要台数を確保することにも留意する。
7		誰が何に使うための施設かを明確にする必要がある。	○基本構想を踏まえ、とりまとめた導入機能について、本日の会議において、事務局案を御審議いただく。
8		多文化共生や多世代交流など、新たなコミュニティを形成することにより、文化として社会、都市空間を共有していく仕組みづくりが求められる。（追加意見）	○「文化力の拠点」には、若者や外国人をはじめ、多世代の様々な人々が集い交流し、新たなコミュニティを形成するよう仕組みづくりを検討していく。
9		静岡市内の飲食業は、オーバーストアな状態である。「文化力の拠点」に「食」を発信する切り口は必要だが、静岡駅周辺では空き店舗が目立ってきた現実も含め、慎重な検討が必要である。	○御意見を踏まえ、市場動向について、今後調査を行う。
10		この地で見込まれる来訪者数を想定し、地元の商業者に検討いただくことは重要である。	
11		静岡県では大学が広い範囲に点在している。静岡県における特徴を考慮し、東静岡の拠点を活用したコンソーシアムについて、検討する必要がある。大学コンソーシアム京都が一つの手本になるが、静岡県における特徴を活かしていかなければならない。	○本日の会議において、大学コンソーシアムの拠点機能形成の観点から、「文化力の拠点」の活用案を提案いただき、御審議をいただく。
12		学生の短期滞在施設を考える場合、静岡らしいものにしないと、学生は集められない。	【資料3】
13		富士山を中心とした文化力が豊かな東静岡に、留学生が短期でも良いので滞在することは意義がある。	
14	世界中の人が見たいと思う庭園の美しい景色は、人々を呼び込むことができる。庭園文化の発信を観光に結びつけるということを強く打ち出すことが重要である。	○「文化力の拠点」の施設内外に本県の多彩な花を飾るなど、花と緑があふれる「ふじのくに『花の都』しずおか」を発信する。	
15	陸の玄関口という位置付けであるから、移動手段のステーション機能（バスターミナル等）についても議論する必要がある。	○導入機能等の検討を踏まえ、移動手段についても今後御審議いただく。	
16	景観・まちづくりに関する意見	車道、歩道、看板、電柱等の周辺景観を整えながら、象徴的な建物を、どう映えるようにするか考えるべきである。	○東静岡駅周辺地区における良好な景観形成を推進するため、県と静岡市による「都市景観検討技術会議」を設置し、検討を進めている。 ○平成28年度前半を目途に、「東静岡地区景観ガイドライン（案）」の取りまとめを行う。  【別添資料1-1】
17		富士山の眺望を確保するため、眺望規制を導入するという考え方があってもよい。	
18		東静岡駅周辺の景観の現状はひどい。景観の観点から空間の再編を、緑化も含めて進めていただきたい。地区計画の区域以外の部分も含め、景観計画を立てていくべき。	
19		「都市が森になる」という考えが、まちづくりに取り入れられるとよい。	
20		将来ビジョンを見据えた景観方針を定めるとともに、粗悪な景観に対しての実質的な景観誘導、指導、助言型の体制づくりによる景観改善の実現化が急務である。（追加意見）	
21	緑の重点地区計画の策定や、クリーン&グリーン施策を展開することで、東静岡から日本平、三保松原への緑の回廊による誘いを創出することが可能である。（追加意見）		